

# 帰つてくる天下の奇祭

刈谷万燈保存会会長が語る万燈祭への思い

夏の一大イベントである万燈祭。

コロナ禍のため、過去2年間は満足に開催できませんでしたが、今年は

例年に近い形式での開催が決定しました。

本番を前に、刈谷万燈保存会会長から祭りにかける熱い思いを聞きました。

例年に近い形式での開催が決定しました。

本番を前に、刈谷万燈保存会会長から祭りにかける熱い思いを聞きました。



①見物客と万燈の距離は至近。だからこそ迫力を感じます  
②締めくくりの儀式「立ち別れ」。神社に札拝をしたあと、万歳三唱をします



③2019年の広小路の万燈は、「巴御前 萩津の戦い」と「徳川家康 鷹狩」  
④万燈の重心がうまく肩に乗りかかるように担ぐのがコツ

約200年受け継がれる市民が待つ元気の源

「コロナ禍により一昨年は中止、昨年は大幅な縮小開催となりましたが、今年は万燈を担ぎ上げて開催します。万燈祭は運営に関わる人だけでなく、多くの市民が毎年心待ちしている刈谷の大切な季節行事であり、元気の源なんです」

こう話すのは、刈谷万燈祭保存会6代目会長の内田英治さん。3年ぶりの大々的なお披露目に、胸をなで下ろしています。

万燈祭は、火伏の神を祭神とする秋葉社の祭礼です。江戸時代の安永7(1778)年に祭礼が開かれたとき、出土物で「ひゅうひゅう町人万燈」が登場したとの記述が昔の帳面にあり、これを起源とする説が伝わっています。嘉永5(1852)年に雨乞いの成就を祝うために町民が行灯を手に持つて踊ったことが始まりとの口伝もあり、内田会長は子どもの頃から、雨乞いの祭として大人たちから教わってきました。

現在、祭りは毎年7月の最終土日曜に開催。初日を「新樂」、2日目を「本樂」と呼んでいます。新樂では氏子7町に加え、市内の企業と地区の合同グループが万燈を披露。本樂では氏子7町の若衆が秋葉社の境内で自分たちの万燈を担いで、神前舞を奉納します。

「昨年は氏子各町にある蔵の前や市民館などで新作と旧作の万燈の展示をしただけでした。ひとつは、祭りへの思いを話す内田さんは止まつた時を動かさねばなりません。」

「コロナ禍が始まって3年目。ウイズコロナ時代の到来です。伝統を次につないでいくためにも、止まつた時を動かさねばなりません。」愛知が誇る天下の奇祭がもたらす幻想世界が、今年は帰つてきます。ずっと祭りに関わってきた者としては感慨深いです」

## 万燈を通じて深まる町民の絆と大人への憧れ

初夏の気配が感じられるようになつた5月のはじめ。氏子7町の各蔵では万燈づくりが急ピッチで進んでいました。まるで浮世絵から飛び出したような迫力ある武将の万燈は、スケッチ画を描くところから始まります。それをもとに土台と全体の骨組みを形成。手足や武器といった部品の骨組みもつくり、統いて骨組み全体に紙を張つていきます。さらに、表現したい武将の着物や甲冑の下絵を描写し、下絵に沿つて蝶を引いたら食紅を用いて彩色。



右) 現存するもっとも古い万燈 左) ヤマタノオロチに立ち向かうスサノオノミコト。設計図は一切なしで仕上げます

最後に部品を組み合わせたら完成です。

「次の祭りに向け、前年の秋から町内の皆が力を合わせてひとつの方燈をつくります。その過程で絆が深まっていくんです。ここ2年は集まつて方燈づくりを存分にできました。舞い踊るのは容易ではありません。だからこそ、うまく担ぐ大人には熱い視線が注がれます。そして、その姿を見た子どもが『いい

今年の万燈祭は、昨年よりも規模を大きくして開催されます。ただし例年どおりの規模やスケジュールではありません。

新樂の目玉だった「全町曳き(市中行進)」は感染症拡大防止のため見送ることになりました。しかし、刈谷市駅周辺での行進が実施されます。

刈谷万燈保存会  
内田英治会長

「愛知県の無形民俗文化財なので、西三河の人だけでなく県民にも『こんなすごい祭りがあるんだ』と知ってもらいたいです」

**新樂**  
17時30分 刈谷市駅北より行進開始  
20時5分 広小路通りにて一斉舞  
20時25分 秋葉社に向けて出発  
21時10分 立ち別れ

17時15分 全氏子町が広小路通りに集合  
17時50分 秋葉社にて子ども万燈の神前舞開始  
17時55分 万燈通りにて子ども万燈の披露舞  
18時40分 秋葉社にて神前舞開始、その後万燈通りに移動して披露舞  
21時 広小路通りにて一斉舞  
21時30分 立ち別れ

**本樂**  
**information / 万燈祭**  
[日時] 7月30日(土曜)・31日(日曜)  
[場所] 市内中心部と秋葉社周辺  
[問い合わせ] 刈谷万燈保存会  
[WEB] [www.katch.ne.jp/~kariya.mando/](http://www.katch.ne.jp/~kariya.mando/)  
[www.facebook.com/kariyamando](http://www.facebook.com/kariyamando)

「コロナ禍が始まって3年目。ウイズコロナ時代の到来です。伝統を次につないでいくためにも、止まつた時を動かさねばなりません。だからこそ、うまく担ぐ大人には熱い視線が注がれます。そして、その姿を見た子どもが『いい

ん。愛知が誇る天下の奇祭がもたらす幻想世界が、今年は帰つてきます。ずっと祭りに関わってきた者としては感慨深いです」

常にうれしそうな表情を浮かべていました。多くの市民が待ちに待つた万燈祭。今年は7月30日に新樂、31日に本樂が開催されます。

常にお見合せをする

文／和佐田真 写真／刈谷万燈保存会提供 デザイン／chica